

熊本県における建設産業の 人材確保・育成の取り組みについて ～新3K推進プロジェクト事業の紹介～

熊本県 土木部 監理課 主事 村田 葵

1. はじめに

本県では、平成16年3月に「熊本県建設産業振興プラン」、平成22年12月に「新熊本県建設産業振興プラン」を策定し、技術と経営に優れ、社会に貢献する建設企業に対して経営改善等の自助努力を支援し、また公正な市場環境づくりのため建設市場環境の整備を行ってきた。

その後、平成28年4月に熊本地震を経験し、県内建設産業が、県民の生活を支える社会基盤を守り、未来へつなぐ資産を創造する担い手としてあり続けるために、新たな建設産業振興の方向性を示す「第3次熊本県建設産業振興プラン」（以下、「第3次プラン」という）を平成31年3月に策定した。

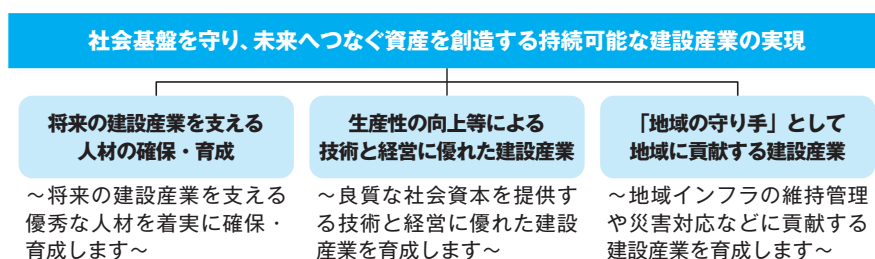
第3次プランでは、若者にとって魅力ある産業となるよう、働き方改革等による人材確保・育成や生産性の向上などによる技術力・経営力の強

化、熊本地震の経験を踏まえた地域力の強化を重点的に取り組むこととしている（図－1）。

2. 新3K推進プロジェクト事業について

県内建設業従業者の高齢化や若年入職者の減少など、担い手の確保は喫緊の課題であり、県としては、前述のプランを軸に、平成26年度から建設業界や教育機関等と連携して、建設産業のイメージアップに取り組むとともに、若手技術者等の確保・育成を行う建設業者に対する支援を実施してきた。

このような中、全国的な生産年齢人口の減少による人材獲得競争の激化、急激に進む働き方改革への対応など、建設産業を取り巻く環境は大きく変化してきている。建設産業が若者から選ばれ、持続可能な産業となるべく、従来の3K（きつい、汚い、危険）から新3K（給与、休暇、希望）



図－1 第3次プランの基本目標と取り組みの方向性

へと転換するために、令和2年度より、小中高生など従来よりも若い世代に対して建設産業の魅力を発信することを重視した、新3K推進プロジェクト事業を展開している。

3. 新3K推進プロジェクト事業の取り組みについて

(1) 「建設産業の力」発信事業の取り組み

本県では、新3K推進プロジェクト事業の一つとして、「教育機関との連携」と「メディアの活用」をキーワードに、建設業界団体や工業高校等と情報交換しながら、児童や生徒に建設産業の魅力を発信している。さらに、メディアに取り上げてもらうことで、広く県民に建設産業をPRすることを目的とした「建設産業の力」発信事業を実施している。

① 工業高校オープンキャンパス（体験入学）の

支援

中学生をメインターゲットに、建設産業の魅力を伝えるため、夏休みに実施される工業高校のオープンキャンパスを利用して、中学生に土木科や建設産業のPRを実施している。

今年度は、阿蘇大橋と立野ダムの工事現場の3年前と現在を比較するVR動画の視聴と、仮橋設置工事のタイムラプス動画視聴を実施した（写真－1、2）。

② 高校生向け建設産業ガイダンス

高校生（2年生以下が対象）向けに、建設産業の業務内容や進路選択プロセス、キャリア形成に関することなど、今後の進路を考える機会を提供するため、県内の建設産業関係団体と協力し、業界説明会（ガイダンス）を実施している。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を鑑みて、Zoomを活用し、対面形式とリモートを交えて開催した。今年度は、完全オンライン



写真－1 VR動画視聴の様子



写真－3 先輩技術者によるトークセッション



写真－2 タイムラプス動画視聴の様子



写真－4 ガイダンス

で実施予定である（写真－3，4）。

③ 高校生向け「建設業ナイストライ」(舗装実習)の開催

建設産業のイメージアップ及び人材確保・育成を図るため、高校生にもものづくりの達成感や、専門的な知識・技術を直接的に学ぶ機会を提供する舗装実習「建設業ナイストライ」を実施している。

今年度は、熊本県建設技術センターを会場として、土木関係学科の1・2年生約170名が参加した。一般社団法人熊本県道路舗装協会の指導により、舗装実習だけでなく、3D測量や転圧管理、安全意識の向上を目的とした高所作業車転倒のVR動画視聴やICT施工体験を行った（写真－5～7）。

④ 災害時の建設産業の活躍記録の制作

建設業者は、災害発生時に真っ先に現場に駆け付け、道路や電気、水道といったライフラインの復旧を担うなど、重要な役割を果たしている。しかしながら、その活躍に対する認知度は、自衛隊や消防と比べると低い状況にある。このような状況を鑑み、県民に広く建設産業の役割と活躍を発信するため、令和2年度に、災害時の建設産業の活躍記録として、動画、パンフレット、パネルを制作した。

内容は、平成28年熊本地震で被災した阿蘇大橋や熊本城、令和2年7月豪雨で被害のあった県南地域取材し、復旧・復興の様子や、復旧工事に従事している若手職員の現場への思い、建設産業の魅力や仕事のやりがいに関するインタビューとなっている。制作したパネルは、前述の高校生向け建設産業ガイダンス等のイベントで展示し、パンフレットは、オープンキャンパスやガイダンスで参加した中学生や高校生に配布している。動画については、YouTubeで現在も公開中である（写真－8～10）。



写真－5 舗装実習



写真－6 3D測量



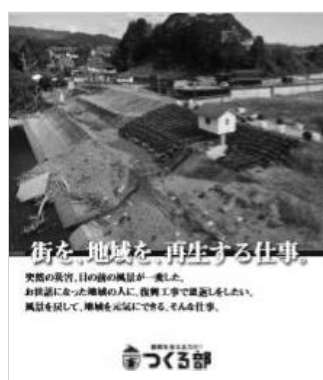
写真－7 VR動画視聴



写真－ 8 災害時の活躍の記録①動画
「熊本県建設産業の力」で検索
<https://www.youtube.com/watch?v=fuYNZF5QCko>



写真－ 9 災害時の活躍の記録②
パンフレット（インタビュー抜粋）



写真－ 10 災害時の活躍の記録③パネル

(2) 建設企業の魅力発見フェアの開催

求職者や就職を控えた高校3年生向けに、県内建設企業に特化した企業説明会である「熊本県建設企業の魅力発見フェア」を実施している。この事業は、県内にどのような建設企業があるのかを理解してもらうことで、県内建設企業への入職促進を目的としている。

前述の「高校生向け建設産業ガイダンス」が業種単位の説明会であるのに対し、こちらは企業単位の説明会となっており、より具体的に就職先について考えてもらうことができるようにしている。

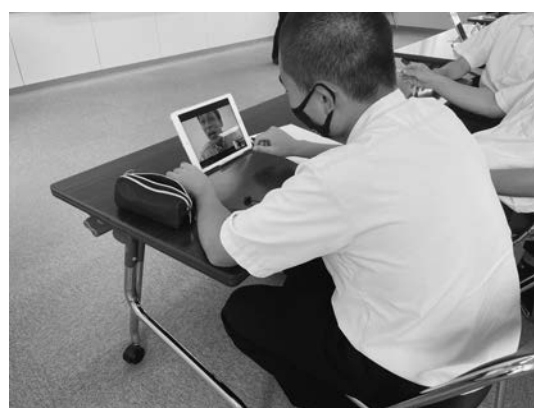
今年度はオンライン開催とし、建設企業の紹介



写真－ 11 熊本県建設企業の魅力発見ホームページ



写真－ 12 ホームページ動画の視聴



写真－ 13 質疑応答

動画や先輩社員のインタビュー動画等を掲載したホームページを作成。参加申込のあった高校に、タブレットを持参し、ホームページ掲載動画の視聴、及び参加企業とのリモートでの質疑応答を実施した（写真－ 11 ～ 13）。

(3) 建設産業働き方・人材育成事業

若手技術者等の育成支援や人材確保のため、各種補助事業を実施している。

① 建設産業若手技術者等資格取得費補助金

40歳未満の従業員等が施工管理技士や電気工事士等の資格を取得する際の費用を負担した県内建設企業に対して費用の一部を助成。

② 建設産業若手技能者雇用促進事業補助金

新たに40歳未満の若年者を雇用して、職業訓練施設で育成する県内建設企業に対し、当該若年者の賃金の一部を助成。

③ 建設産業働き方改革推進事業費補助金

働き方改革を推進するような取り組みを行う県内建設業者等に対して費用の一部を助成。

④ 建設産業研修体制構築支援補助金

新たに研修体制の強化に取り組む県内建設業関係団体及び企業に対して費用の一部を助成。

(4) その他の取り組み

ここまで紹介してきた取り組み以外にも、建設業関係団体が実施する高校生の現場実習や、女性就業者同士の交流を促進するため、熊本県内建設企業で働く女性の集まりである「くまもと建麗会」の活動を支援している。

また、週休二日制の導入や、処遇改善を目的としたキャリアアップシステムの普及、ICT導入による生産性の向上等、若者にとっても希望があり、魅力的な職場環境づくりに努めることとして

いる。

4. 新3K推進プロジェクト事業の今後について

本県では、業界団体の積極的な協力体制が整っており、人材確保・育成の取り組みを行う上での大きな強みとなっていることから、中長期的な視点を持ち、地道に継続していくことが重要である。近年、29歳以下の建設業従業者の割合が上昇傾向にあるなど明るい兆しが見えており、一定の成果に結びついている。

これまでは、工業高校の生徒を対象とした取り組みに力を入れてきた。今後は、少子化及び工業高校志願者の減少の現状を踏まえ、普通科高校の生徒や、小・中学生及びその保護者等、裾野を広げていくことを考えている。

また、コロナ禍を契機にリモート化や働き方改革など、新しい価値観の創造が急速に進んでいる。このような変化に柔軟に対応できることは、若者から選ばれ持続可能な産業となる上で必要不可欠なことである。そのため、この変化を前向きに捉え、その時々課題と目指すべきところを正確に捉えて、事業を実施していきたい。



著者近影